

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2892000734		
法人名	社会福祉法人 弘道福祉会		
事業所名	明石グループホーム ラガール		
所在地	明石市林崎町3-553-7		
自己評価作成日	令和5年 3月 10日	評価結果市町村受理日	令和5年7月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	令和5年3月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所ごとのリクエストを採り入れた駅弁フェアや、敬老の日には赤飯や和菓子、誕生日には大きなケーキで祝う等の配慮があり、食事が楽しめるよう工夫している。行事計画書で企画し、事業所でちらしずし等季節感のある手作り昼食や、ホットケーキ作り等おやつレクの機会を設け、可能な利用者はADLや希望に応じて野菜のカット・盛り付けや後片づけ・スイカ割り等に参加できるよう支援している。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

瀬戸内海や淡路島が眺望できる環境にある総合福祉施設内に新設されたグループホームであり、季節感が感じられる快適な生活環境である。施設内の連携体制が整備され、ふれあいサロンやラジオ体操の開催協力と参加等、地域交流・地域貢献に努めている。食事は施設厨房から提供され、季節感・行事食・事業所毎のリクエストで選んだ駅弁フェア等の工夫があり、事業所で手作り昼食やおやつレクリエーションの日を設け、食事の楽しみに注力している。コロナ禍で外出を控えているが、時期を勘案しながら、園庭での散歩・個別でのドライブ・買い物・季節の外出行事も実施している。季節の行事・個別や集団でのレクリエーション活動・家事参加・制作等を通じて、利用者が日常生活の中で楽しみや役割を感じながら、心身機能が維持・向上できるよう取り組んでる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	できる限り住み慣れた地域で生活が継続できるように、個々に合ったニーズに応えられるよう支援している	法人の理念・基本方針を共有し、基本方針の中に地域密着型サービスの意義を明文化している。玄関への掲示、職員手帳の携帯等で、職員の共有と意識付けに努めている。また、週1回昼礼時に、施設長が理念を説明し理解を深めるよう取り組んでいる。グループホーム会議で、利用者個々のケアについて検討する過程で理念に立ち戻る機会を設け、理念実践につなげるよう取んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ラジオ体操や地域のバザーへの参加などを行っている	コロナ禍の状況であるが、初詣・地域のバザー・ふれあいサロン(ココナッツサロン)・ラジオ体操への参加・マッサージ・サックス演奏ボランティアの受け入れ等を通じて、地域交流できるよう工夫している。自治会と連携し、廃品回収・ラジオ体操開催協力等地域貢献に努め、中学生のトライやるウィークの受け入れ等、学校教育への協力も行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	様々なサービスがあるので、その方個人個人に合ったサービスを支援・提供できるように努めている		

明石グループホームラガール

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	GHの活動内容を伝などを伝えている その後地域からの意見や情報交換をしている	家族代表とその利用者・地域代表・知見者・事業所職員等を構成委員として、小規模多機能型居宅介護事業所と合同で2カ月に1回開催している。令和4年度は5回集合開催し、延期となっている6回目は、4月開催を計画している。会議では、施設長挨拶・利用者状況や事業所の活動状況・コロナ対策・サービス内容等を報告資料で説明し、意見交換を行っている。地域の情報収集や、事業所情報の地域への発信等、運営推進会議を活用している。議事録と報告資料を、次回案内状とともに構成委員に持参している。玄関にグループホーム公開用ファイルを設置し、議事録を公開している。	時期を勘案しながら、可能な範囲で利用者の短時間参加を検討してみたいかどうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	部会に参加しわからない事を聞いてもらっている また、保健所などに利用者の介護保険変更申請の相談の相談など行っている	市から新型コロナウイルスに関する情報提供を受け、また、保健所からもラウンドで助言を受け感染対策で連携している。要介護認定変更申請等の相談で市の担当窓口と連携している。成年後見制度利用支援を通じて後見支援センターと連携している。管理者が3ヶ月に1回、明石市グループホーム小規模合同部会に参加し、課題等について部会を通じて市と連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回の研修をし身体拘束についての理解を深め利用者様の行動パターンを把握し色々な角度からチーム全体で取り組んでいる	「身体拘束適正化・虐待防止のための指針」を整備し、事業所内に掲示している。「身体拘束・虐待防止委員会」を毎月のグループホーム会議時に開催し、議事録の配布により職員の周知を図っている。年間研修計画に沿って、年2回「虐待及び拘束」について、グループホーム会議の中で資料を配布し研修を実施している。参加職員は「研修実施記録」を提出し、欠席者も資料配布・「研修実施記録」提出により周知を図っている。ユニットの扉は施錠しているが、外出希望があれば外出支援で気分転換を図る等閉塞感を感じないように取り組んでいる。	グループホーム会議の中での「身体拘束・虐待防止委員会」の位置づけを明確にし、3ヶ月に1回以上議事録に残すことが望まれる。拘束事例・虐待事例がない場合は、行動制限や不適切ケアにつながる事例がないかを検討する場とし、検討内容を議事録に記録し、職員全員への周知を明確にすることが望まれる。

明石グループホームラガール

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会・研修の実施 早期発見に努め全体で注意を払っている	虐待防止についても身体拘束適性化と同様の方法で、グループホーム会議の中で委員会と研修を実施し、不適切ケアの未然防止に取り組んでいる。気になる言葉かけや対応があれば、管理者は個別に助言したり、グループホーム会議で注意喚起を行っている。管理者は定期的、随時に個別面談を行う等、相談しやすい環境づくりに努め、法人としてもストレスチェックの実施・相談窓口の設置等の体制を整備し、職員のストレスや不安がケアに影響しないように取り組んでいる。入浴時・更衣時等に身体状況に留意し、不適切ケアが見過ごされないように努めている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会などで学んでいる 数人成年後見制度を利用されているが個々の必要性を話し合うなどの環境作りに務めた	年間研修計画に沿って、権利擁護に関する制度「後見人制度について」の研修を実施している。成年後見制度の利用事例があり、後見人の面会対応、金銭管理や状況報告、サービス担当者会議参加等を通して制度利用を支援している。今後も制度利用の必要性や相談等があれば、管理者が窓口となり「後見支援センター」と連携して支援する仕組みがある。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	各家族に合った説明を心掛け信頼関係を築けるように努めた	入居希望・相談があれば、見学に対応し、パンフレットを使用して利用開始までの流れ・料金等を説明している。契約時には管理者が、重要事項説明書・契約書・指針・同意書に沿って説明し、文書で同意を得ている。特に理解と納得を得たい内容については、「入居に際してご理解いただきたい事項(説明書)」に沿って説明している。現在までに契約内容改訂の事例はないが、改定の際は変更内容を説明した文書で同意を得ることとしている。	

明石グループホームラガール

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口の設置 小さな事でも相談しやすい関係作りに努めた	時期に応じた家族の面会対応(2階のエレベーターホールやWEB面会)・来訪・電話・毎月の写真を添えた「明石ラガールグループホーム新聞」と担当職員が1ヶ月の様子を伝える「お便り」等で、利用者個々の近況を報告し、家族の意見・要望等の把握に努めている。把握した内容は「連絡ノート」で共有し、個別の経過は「支援経過記録」に記録している。面会・外出に関する要望が多く、時機を勘案しながら対応を検討している。利用者の要望は日々の会話の中で把握し、食事の希望は手作り昼食やおやつレクリエーションに反映できるよう取り組んでいる。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に施設長・管理者と各職員との面談の実施 部署代表者会議、運営会議での発表	毎月ユニット合同の「グループホーム会議」を実施し、事故報告・入居者状況の共有や検討、業務についての検討等を行い、職員の意見・提案が反映できるように取り組んでいる。議事録ファイルの設置と配布により職員の周知・共有を図っている。日々の業務に関する検討事項は、朝夕の申し送り時に管理者に報告するとともに、「連絡ノート」で共有し改善方法等を検討している。定期的には年2回、随時にも管理者が面談を行い、個別に職員の意見を聴く機会を設けている。年1回、意見等を施設長に直接伝える施設長面談も実施している。管理者が「部署代表者会議」「運営会議」に参加し、各部署の職員の意見等を共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に施設長・管理者と各職員との面談の実施し少しでも働きやすい環境作りに努めた 年2回の人事考課で各個人の面談を実施し目標を設定している		

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修を実施 ベテラン職員と共に業務を行い1つずつ勤務を憶えてもらっている		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会・情報交換など近隣施設との交流やネットワーク作りに取り組んでいる		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や困っている事、要望などに耳を傾けながら聞き取りをし信頼関係作りに努めた		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族などが困っている事や不安な事・要望など相談しやすい環境作りに努めている		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族がどんな支援を必要としているかを把握し必要に応じてサービスの対応に努めている		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者同士が家事や日常の活動を一緒にできる雰囲気作り、関係を築けるように努めている		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で制限は多々あったが、リモートでの面会や敬老会でのお祝いなど家族と関われる機会を設けた		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染みである喫茶店や買い物の同行 コロナ禍で面会制限はあったが電話はリモートでの面会を実施し関係作りの継続を図った	コロナ禍のため通常の面会は制限しているが、家族・友人・知人とのエレベーターホールでの面会・WEB面会・事業所の電話や携帯電話でのやり取り等、可能な方法で馴染みの人との関係が継続できるよう取り組んでいる。ラジオ体操、ふれあいサロン参加や、ボランティア来訪等を通じて、併設の小規模多機能型事業所の利用者や地域の馴染みの人との関係が継続できるよう取り組んでいる。また、時期を勘案しながら、馴染みの喫茶店や買い物等、馴染みの場所に出かける機会づくりにも個別に対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段過ごしている食席に注意し、入居者同士が談笑し過ごせる様に工夫している 皆で制作活動をする機械を設けている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用中から信頼関係を築けるように努めた利用終了後もほかの利用先の把握に努めて次のサービス実施に情報を伝えている また、家人にもアドバイスをしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本情報シートとケアプランを確認し一人一人の思いを把握し安心して暮らしていけるように努めている	入居時の「アセスメントシート」主訴欄、「基本情報シート」生活歴・趣味・希望欄、家族記入の「興味・関心チェックシート」等から、利用者の思いや暮らし方の希望の把握に努め、介護計画や日々の個別支援に反映できるように取り組んでいる。利用者との日々の会話で把握した内容は、「連絡ノート」で共有している。把握が困難な場合は、表情や反応から汲み取る等把握に努め、「連絡ノート」で共有している。	利用者個々の人物像を把握する情報(生活歴・生活習慣・趣味・嗜好等)を「基本情報シート」に集約し、入居後に新たに把握した情報を追記する等、蓄積した情報を人物像の職員間の共有や個別支援に活用してはどうか。

明石グループホームラガール

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各利用者のアセスメントを基にしてその人らしい生活を大事にしなじみの生活環境を大切にしている		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の健康チェック及び毎日の申し送りで情報を共有している		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングを記入し適切な介護サービスになっているかを確認している	「基本情報シート」「アセスメントシート」、家族記入の「興味、関心チェックシート」を基に、サービス担当者会議を開催し、初回の介護計画を作成している。日々のサービス内容の実施状況や支援状況を「介護記録」のケース記録に入力している。個人ファイルの設置により、計画の周知を図っている。短期目標に沿って、毎月「モニタリング表」でモニタリングを実施している。毎月の職員会議で必要な利用者について支援内容の検討を行い、大きな変化がなければ基本的に6ヶ月毎に計画を見直している。見直しにあたっては、「モニタリング表」でモニタリングを、アセスメントシートで再アセスメントを行い、サービス担当者会議を家族(後見人)・計画作成担当者・介護支援専門員等が参加して開催している。必要に応じて、かかりつけ医等関係者の意見をサービス担当者会議で共有し、見直しに反映している。	・計画内容の職員への周知と、計画にもとづいたサービスの実施が明確になる記録方法の工夫が望まれる。 ・計画見直し時のモニタリングで評価が明確になる工夫が望まれる。 ・サービス担当者会議録に、かかりつけ医等関係者の意見も記載することが望まれる。
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別記録に記入し職員全体で情報共有している		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々に合った支援方法を職員間で話し合いその人らしい暮らしを続けられる様に支援している		

明石グループホームラガール

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	数回ではあるが自治会、ボランティアの協力を得て各利用者がとのシム機会を作ったり参加できる場を設けた		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に1度の往診と随時の状態報告をしている	契約時に希望するかかりつけ医を確認し、利用者・家族の意向に沿った受診を支援している。2週間に1回内科医の訪問診療、希望者には歯科の訪問診療による受診体制があり、入居前のかかりつけ医を継続している利用者もある。訪問診療時は、施設看護師が立ち合い、他科受診を含め通院による受診は、管理者が同行して情報を提供している。訪問診療・通院等の内容は、「管理日誌」「連絡ノート」に記録するとともに、「支援経過記録」で個別、時系列に経過を共有している。看護師からの連絡事項は、「看護からの連絡ノート」に記録し職員に伝えている。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	報告、連携をとり情報交換しながら個別に適切な指示を受け支援している		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が退院後も安心して生活、治療できるように施設医と相談、病院に介護サマリーを送ったりし早期退院に努めて調整を行っている	入院時は「看護介護情報提供書」「日常生活援助状況」「薬情」で、医療機関に情報提供している。入院中は、地域医療連携室と電話連絡を密にして情報交換を行い、連携を図りながら早期の退院に向け支援している。入院中に把握した情報は「支援経過記録」で共有している。退院時には「看護サマリー」「リハビリテーション実施計画書」で情報提供を受け、退院後の状態に応じて、支援方法や介護計画の見直しを検討している。	

明石グループホームラガール

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの研修の実施 契約時に重度化・終末期の指針の説明をし本人・家族に同意を得ている。施設医、看護師と連携を図り情報交流することで重度化に対する方向性を検討している	契約時に「看取りに関する指針」に沿って、医療連携体制や重度化・看取り対応に関する事業所の方針を説明し同意を得るとともに、「介護・看護についての意思」で意向確認を行っている。重度化を迎えた段階で、主治医から家族が状況の説明を受け、現状の共有と家族の意向確認を行い、家族の意向に沿った支援に取り組んでいる。現在まで看取りの事例はないが、今後、看取り希望があれば対応する方針であり、「看取りケア」研修を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の研修の実施 急変時のマニュアルを作成している		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の訓練を実施 マニュアルを作成し避難の周知をしている	令和4年度は2回、利用者も参加して夜間想定と日中想定で小規模多機能型居宅介護事業所と合同で火災時の避難訓練・消火訓練を実施している。訓練前に「避難訓練の流れ」「消防訓練の流れ」を作成し、利用者が定められた各階の避難誘導場所で待機できるよう訓練を実施している。訓練後には振り返りを行い、参加職員の感想・改善点・反省等を集約し「消防訓練実施記録」を作成している。「避難・消防訓練の流れ」の掲示、実施記録回覧により、全職員に訓練内容の周知を図っている。自治会から特別養護老人ホームを一時避難所として使用する依頼があり、施設として地域との協力体制を築いている。施設内の事業所間の連携体制も整備されている。現在は、特別養護老人ホームで共同備蓄し栄養課が管理しているが、今後は、小規模多機能型事業所の2階倉庫での共同備蓄に向け準備している。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室への訪室時や入浴、排せつなどプライバシーに配慮し人格を尊重した言葉かけをおこなっている	「接遇」「倫理及び法令遵守」「認知症ケア」等の研修の中で、人格尊重について、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけについて学ぶ機会を設けている。特に、居室への訪室時や、入浴・排泄介助時は、プライバシーへの配慮を徹底するように周知を図っている。気になる言葉かけや対応等があれば、管理者が個別に助言したり、グループホーム会議で注意喚起し、意識向上に努めている。	写真・映像等の使用について「個人情報使用同意書」説明時に口頭で了解を得ているが、目的別に文書で同意を得てはどうか。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定しやすい言葉かけに配慮している 自己決定が難しい方は、日々の生活の情報や表情などでくみ取れるよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	安心して日常生活を送ってもらえるようにその人らしい生き方を把握し支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴後は本人の意向にそって一緒に衣類選びを行っている 定期的にかラーやカットも実施できている		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々のできる事を把握し職員と一緒に盛り付けや後片付けなどを手伝って頂いている。また、食事・おやつレクはできる限り職員と共に参加してもらっている	施設内の厨房で調理した食事を提供している。盛り付けは各ユニットで行い、食事形態への対応は厨房と連携して行っている。厨房では、献立に季節感や行事食を取り入れ、施設栄養課による食事アンケートから把握した利用者の好みや希望も反映している。施設全体で、事業所毎のリクエストを取り入れた駅弁フェアも行っている。事業所で、手作り昼食・手作りおやつの日を定期的に設け、誕生日にはユニットでデコレーションしたケーキで祝い、利用者もADLや希望に応じて参加できるよう支援している。	

明石グループホームラガール

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41			○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を数値化し摂取量を確認して定期的に管理栄養士と各入居者の情報を伝え栄養バランスを考えてもらっている		
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施 見守りや磨き上げの介助をしている 必要に応じて週に1回の歯科往診の実施もしている		
43	(20)		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表でチェックし排泄パターン、リズムを把握し個々に合った排泄の支援をしている	各居室にトイレが設置され、基本的には居室のトイレを使用している。「排泄表」で利用者個々の排泄状況や排泄パターンを把握し、必要に応じて声かけ・誘導を行い、基本的には、日中・夜間ともにトイレでの排泄・自立に向けた支援を行っている。介助方法や排泄用品等について検討事項があれば、グループホーム会議で検討して議事録で共有し、現状に適した支援につなげている。日々の提案は朝夕の申し送りで検討し、「連絡表」で共有している。居室トイレはプライバシーに配慮された環境であり、ドアの開閉や周囲に配慮した声かけ等についても周知を図っている。	
44			○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給に努め体操や散歩など体を動かす機会を増やしている		
45	(21)		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人のタイミングに合わせ声掛けをし入浴でリフレッシュしてもらっている	一般浴槽での個浴で、一人ずつ湯を入れ替え、自分のペースでゆっくり入浴できるよう支援している。週2回の入浴を基本とし、利用者の体調・生活習慣・希望に応じて柔軟に対応し、実施状況は「バイタル表」とパソコン内の入浴記録で把握している。浴槽での入浴が困難な場合は、シャワー浴・足湯で対応し、拒否がある場合は、声かけやタイミングを工夫する等、個別の配慮で対応している。浴室に外の景色が見える窓があり、ゆず湯・菖蒲湯で季節感を取り入れる等、入浴がより楽しめるよう支援している。	

明石グループホームラガール

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の心身の状況や習慣を把握し状況に応じ、居室で過ごしていただくなどの支援を行っている		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の保管から服用、使用に確認を行い誤薬の無いよう看護・職員と連携をとり服薬管理に努めている		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴にそって個々の趣味ややりがいを感じられるような環境作りに努めた		
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍で外出行事は中々できなかったが個別でのドライブや買い物、園庭での散歩の機会を増やすように心がけた	コロナ禍のため外出を控えているが、園庭での散歩や個別でのドライブ・買い物には、可能な限り出かけられるよう取り組んでいる。時期を勘案しながら、近隣神社への初詣、藤棚鑑賞や舞子公園への外出行事も実施している。眺望の良いバルコニーでの外気浴、敷地内の屋外足湯等、戸外で過ごす機会作りに努めている。現在、菜園作りに取り組んでおり、戸外で園芸活動ができるよう計画している。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、おこずかいは施設管理にしている 嗜好品の希望などは普段からのコミュニケーションで気持ちをくみ取るようにし個別での買い物の同行を実施した		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自身で携帯電話を管理できる方は自由にやり取りをしている		

明石グループホームラガール

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除はしている 季節の作品や写真を飾るなどの工夫をしている	リビングはガラス窓が大きくて明るく、瀬戸内海が眺望でき、渡り廊下で小規模多機能型事業所の2階デッキと連結されている。空調による温湿度管理や換気・消毒を徹底し、快適で衛生的な環境づくりを行っている。利用者と制作した季節の共同作品、行事の写真やラガール新聞を掲示し季節が感じられる。気の合った人同士で談笑できるよう食席の配置を工夫し、思い思いに居心地よく過ごせる環境を整備している。可能な利用者には、調理、洗濯物干し・取り入れや、月1回外回りの清掃等家事参加できるよう支援し、生活感を取り入れている。個別や集団でのレクリエーション等共用空間での活動を通じて、日常生活の中で楽しみながら心身の機能低下予防に取り組んでいる。バルコニーも、共用空間として活用し外気浴・家事活動等を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士で談笑できる様に食席を工夫している		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら使い慣れた物を持参してもらい本人にとって居心地の良く過ごせるよう工夫をしている	居室には、トイレ・クローゼット・タンス等が設置されている。テレビ・椅子・時計等使い慣れた物が持ち込まれ、自作の絵画・家族の写真等が飾られ、自宅と同様に居心地よく過ごせる居室づくりを行っている。本・絵の具等趣味の物や道具を持ち込んでいる利用者もあり、趣味が継続できるよう支援している。利用者の状況に応じ、居室前に大きな表札を掲示し、場所間違いの防止に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	楽しくやりがいのある共同生活を送れる環境作りに努めている		